①厳寒期に複数回耕うんするこ

圃場では、箱施用薬剤 (エバ 注意が必要です。毎年発生する 害が増加している紋枯れ病にも 除はよく見かけますが、近年被

とで、越冬する貝を減らす。

的防除を組み合わせて対策しま 薬剤防除だけでなく、次の耕種

②入水時に水口にネットを設置

予防することをお勧めします

ゴルフォルテ箱粒剤など) か

5

多

成

分

斉

分

析

残

留

農

薬

分

析

点

数

生が多い圃場では、田植え後の

点米カメムシ類やいもち病の防

出穂期ごろの防除として、

斑

る耕うん不足。暖冬による越冬

られました。

枯れ病が多発した圃場が見受け

に曇雨天が続き、いもち病や紋

数の増加)。ジャンボタニシの発

ニシの被害が多発し、植え直し

昨年は例年以上にジャンボタ

●いもち病・紋枯れ病

昨年は6月中旬~

ク 月下

旬

をする圃場が多く見られました

(原因:前年秋の台風・大雨によ

見られました。

これらの対策として、中干

より、還元害による生育障害も よって堆積した稲ワラの影響に また昨年は、前年の台風・大雨に が過剰)になる傾向があります。 く、生育前半から過繁茂(茎数

近年は田植え後の気温が

高

させる。

気を入れて根に活力を与えると をしっかりと行い、土壌中に空

ともに、過剰な分げつを抑えま

●ジャンボタニシ

中干し

「栽培のポイント」

③田植え後3週間は4セッ以下の

浅水管理を行い、食害を軽減

気象庁データ(横芝光)を基に作成

を防ぐ (写真1)

することで、水田内への侵入

ラ マ

やさいの里営農センター 営農指導員 中村 克己

●トンネル換気

今後の管理

る低段の花を守るため、 適温16~20℃)。 ル被覆と換気が重要です(生育 なります。 ると、耐寒性・対暑性ともに弱く 特に低温期に開花す

を剥がし、地温の上昇を抑えて 徐々に換気量を増やしまし を目安に四方換気になるよう、 ら換気穴を増や きの間に換気穴(直径50 う。収穫が近くなったらマルチ を2個開けます。2月中・下旬か ください。 し、3月中・下 旬

整枝と土入れ

株は放任します。 まりの側枝は株元から除去しま 詰まった太い側枝を1株当たり ら整枝を行いましょう。節間の す。草勢が弱く、側枝の 8本程度残します。主枝と芯止 くするために3月上・中旬 整枝後、株の中央部に置土を 採光性を良くし、 3粒莢を多 少 な 頃 か い

することで、採光性の向上と新

ソラマメは本葉5枚以上にな

トンネル被覆直後は、株間50 トンネ がります。 乾燥対策

えましょう。 害の要因となるので、灌水を控 ださい。降雨がある場合には湿 通路に水を流すなどを行ってく 期は特に水を欲する時期です。 程度を灌水してください。開花 降は、7~10日おきに5~7㌔ 根の活着を促します。開花期以 場が乾燥しない程度に灌水

した。暴風対策として、ビニー 昨年も強風による倒伏被害 ンネ

定植後から開花期までは、

●暴風対策

で、被害が大きい傾向にありま が発生しました。特に、 ルをすでに除去していた圃場

穫の労力軽減や収量増加につな めの整枝管理を行うことで、収 きます。近年は放任栽培も増え ていますが、3粒莢を増やす たな側枝の発生を防ぐことがで た 段誘引テ 被覆除去後のトンネル支柱を2 同様の対策を行いま めします (図①参照)。被覆がな い場合は支柱を立てて、 ~3㍍間隔で残し、できれば2

ープを張ることをお勧

定期的な灌水をお勧めします。 ました。今年度も可能な範囲で ら、減収した圃場が見受けられ ず、枯れ上がりも早かったことか 育不良により樹勢の維持ができ となったため、着花 昨年は4月後半から乾燥状 したものの生

図① ソラマメの誘引

病害虫防除 表●を参考に、発生初期の薬

×の部分は テープで止める

トンネル支柱は ~ 3メートル間隔で

前述と

イラスト提供:みかど協和(株)

剤防除を心掛けましょう。

「営農情報メール」

作柄情報、病害虫対策、青果物概 況、イベント案内など、営農に役 立つ最新情報をお届けします。

↓ 登録はこちらから (登録無料)



JA山武郡市の 組合員ならどなた でも登録できます。

表① ソラマメに登録のある薬剤					
	薬剤名	適用病害虫	希釈倍率	使用時期	使用回数
	ロブラール水和剤	赤色斑点病	1000倍	収穫前日まで	3回以内
	アフェットフロアブル	さび病	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	アミスター 20フロアブル	さび病	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	アブラムシ類	2000~4000倍	収穫3日前まで	3回以内
	エルサン乳剤	アブラムシ類	1000~2000倍	収穫7日前まで	2回以内
	アドマイヤーフロアブル	アブラムシ類	4000倍	収穫7日前まで	3回以内

図② 令和2年産米の栽培期間における気象推移

写真① 水口にネットを設置



※残留農薬分析において、基準値を超過す る成分は検出されませんでした。

サトイモ

12月の分析経過について

ネギ

合計10点

ハクサイ ………1点

ダイコン……2点

コマツナ ……1点

…1点

-----1点

土壌診断点数 …… 合計36点